





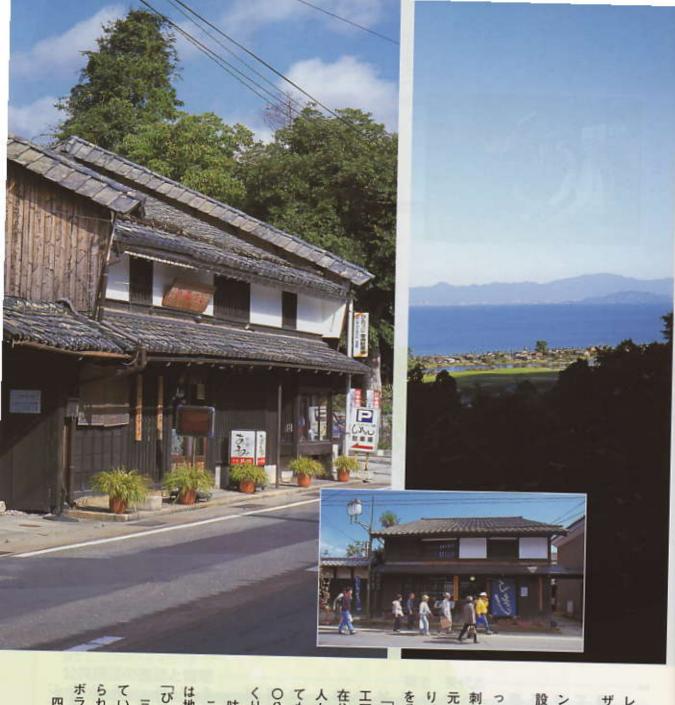
その多くは老朽化が進んでいる。数多く残されているが、言うに及ばずはかつての繁栄を偲ばせる商家が今も城下町として発展した町である。町に城で町として発展した町である。町に

拠点として機能させている。 「ガリバーアクティブ95委員会」(代表・今西仁さん)は、城下町としてのただすまいを損なうことなく、そうした解体寸前の旧商家を町の物産販売所た解体寸前の旧商家を町の物産販売所

上して改修したものだ。平成八年四月にオープンした「びれーでは一号館」は油屋を営んでいた古い

母屋は「びれっじたかしま館」となり、高島町の総合観光案内所も兼ねている。 町の総合観光案内所も兼ねている。 納屋は「アイルランドと友好関係にあることから、国際交流で生まれた文化を紹介する施設、アイルランドの特産も展示、販売されている。

「シャムロック・カフェ」というカフェルランドのお酒が楽しめる。離れはされ、黒ビールやウイスキーなどアイされ、黒ビールやウイスキーなどアイ



庭はラベンダー、ゼラニュウム、ミザートを味あうことができる。

設えた。

をそのまま生かし改修した。

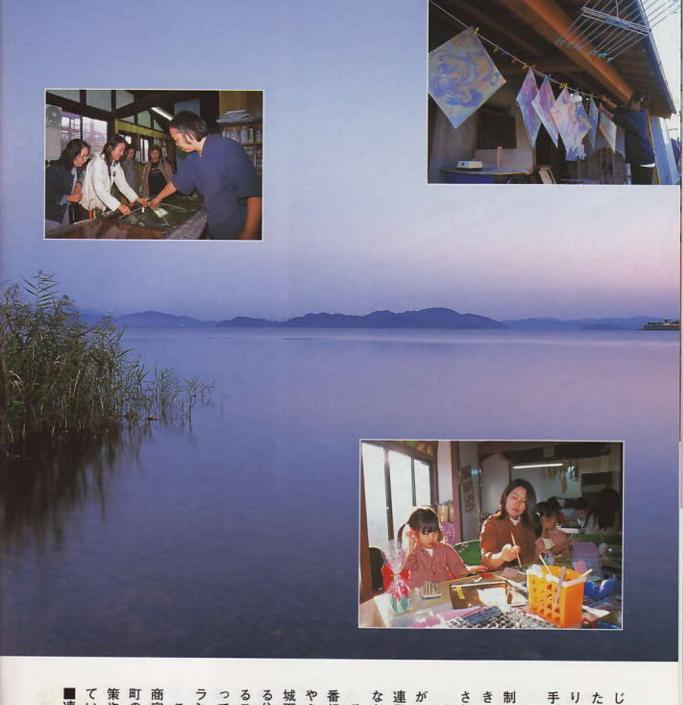
できるだけ築後二百年の建築
が受け、できるだけ築後二百年の建築
が受けた若者たちが、醤油の醸造
が受けた若者たちが、醤油の醸造

「びれっじ二号館」には染色工房と味工房が入っている。染色工房は、地元 在住の京都伝統工芸士が、より多くの 人たちに染色の楽しさを手軽に体験し てもらおうと開いている工房で、約一 の分間で墨流し染色によるハンカチづ くりが体験できる。

味工房は、夜は居酒屋になる。

にうした空き家を活用した取り組みにある。三号館、四号館ともに女性が運営している。三号館、四号館ともに女性が運営している。三号館は、障害者の施設で作るれた作品が展示、販売され、八人のこうした空き家を活用した取り組みにある。

四号館はキャンドル工房で、びれっ



策や観光のキーポイントとして機能し 町の活性化の拠点となり、城下町の散 商家は生まれ変わり、今ではすっかり ランティアが結成され、活躍している。 ることでいい刺激となり、積極的にな る住民にも、年間三万人の観光客が訪れ 城下町気質で、やや閉鎖的なところのあ や名古屋からの観光客も増えてきた。 番組で取り上げられるに従い、京阪神 なお台所事情は苦しい。 が一番苦しかったという。イベントの じ一号館のハーブガーデンを通り抜け ってきた。町の歴史を案内する観光ボ 連発でどうにか乗りきったものの、今 きるようにと二つの運営委員会で運営 制がとられており、お互いに競争がで た奥にある。世界各地で収集した色と 手づくりキャンドルの体験もできる。 りどりのキャンドルが展示されており、 こうして高島町では、解体寸前の旧 それでも、びれっじが雑誌やテレビ 活動を始めて五年になるが、三年目 それぞれの「びれっじ」は独立採算

|連絡先||高島町商工会

1